

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472200134		
法人名	医療法人社団 川越伊藤医院		
事業所名	グループホーム かわごえ		
所在地	三重郡川越町大字豊田299番地1		
自己評価作成日	評価結果市町村提出日	平成22年1月26日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472200134&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 22 年 1 月 26 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内の医療が直ちに利用でき、医療・看護の管理が充実していること。
 介護者も経験長く、入居者の介護ランクが徐々に高くなったとしても安心して暮らせるよう支援している。入居者も最小数(5人)であり、常時目の届く範囲で職員と入居者とが過ごし、持てる力を失わぬよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物二階には、産婦人科、小児科があり、一階部分に設けられている1ユニット5人のグループホームである。住宅地の一角にある建物はグループホームとして外観上見分けられないが、地域としては近くにある同一経営の老人保健施設と共に充実した福祉施設としてグループとしての存在が大きい。利用者及び職員にとっても、運営者が医師であると共に病院が二階にある事の安心感が強い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人出来る事、出来ない事が違うので出来る事をしていただき、家族の様に協力しながら毎日を共に過ごしている。	「穏やかに、健康で、明るい生活」を理念として日常の支援を実践している。利用者は小人数5人でもあり、一人ひとりの個性を大切にして共に明るく過ごしている様子がうかがえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	顔を合わせた時の日常の挨拶は欠かさず行っている。玄関外の草引きを利用者と一緒に行いながら近所の方と会話したりする。	地区の福祉事業者会議に参加し、地域との交流を図っており、日常的には散歩の時に近所の方との会話を心がけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あまり出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、区長、老人会会長より、健全な経営の元に永続的やってもらえると町民としては有難いとの意見をいただいている。	会議は年一回であり、運営推進会議を事業所の運営に活かす事には至っていない。又、家族の出席が無い。	運営推進会議は事業所の味方として、また地域の理解と支援を得る為の貴重な機会でもあり、二ヶ月に一回の開催が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険サービス事業者間会議に出席し関わりを持っている。	町の福祉課の職員が研修会の案内を持参したり、事業所からは利用者の認定更新時などの機会に訪問して係わりを持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠をしない介護に取り組んでいる。外へ出たがる利用者には一人では外出出来ない事を伝え、職員や家人と共に散歩したりする。	身体拘束禁止マニュアルに基づき職員はその弊害を理解している。玄関及び居室の施錠はせず一人ひとりに応じた対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会は無かったが、今後勉強会を開催していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援までは出来ていない。 今後勉強会をやっていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一緒に書類を見ながら丁寧に説明し理解を得ている。意見があればいつでもお話し下さるようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られる都度、日々のご様子をお伝えし、ご意見を伺っている。	利用者は町内の方ばかりで、家族が毎月の利用料金を持参される時には、日頃の様子を伝えたり希望を聴いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時機会をもっている。	定期的なケア会議は設定していないが、職員との申し送りを活用して利用者の状況を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会があれば参加させる用意がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「そんな事口に出したらお終いやわ」と思いを話して頂けない利用者もおられるが、横に座って話を聞いたり、日々の暮らしの中から思いを汲み取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のお気持ち、考え方を聞いた上で、当ホームの関わり方を相談し、遠慮なく何でも話して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでのご様子や思いを聞かせて頂くことにより、すぐ必要とされる支援を職員間で話し合い、見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除したり、おやつ作りやボール遊び等、共に笑い、話し合いながら日々の生活を楽しんでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々のご様子をお伝えし、ご家族の思いを伺いながらより良い介護を楽しんでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誰でも気軽に面会に来てもらったり、外出して頂けるようご家族に働きかけ、ご本人の思いを叶えてもらっている。	利用者が町内の方ばかりであり、時々友達の方が訪ね来られて話し合っている。本人と家族の希望で随時連れて出かける機会がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳の遠い方はどうしても会話に入りづらくなりやすいが、側で会話を撃ぐことによりお互いの思いが通じ合っている関係が築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所されても挨拶に顔を見せて下さるご家族もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆったりと会話を持つことにより、ご本人の思いを引き出して添うように努めている。	日頃の支援が惰性にならない様に、入居時のアセスメントを介護計画書やバイタルチェック表と共に同一ファイルにして、常に一人ひとりの想いや希望を忘れない様に大切に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしぶりや考え方、お人柄等聞かせて頂けるよう働きかけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々ご様子は変化するのでその日その日に合わせて対応し、一緒に生活する事により出来ないと思っていた意外な力を発見する事もある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で話し合い、それぞれの意見をまとめ、ご本人やご家族の意向を加味して計画し経験豊富なケアマネで集約作成している。	三ヶ月毎に職員と共に「ケアプラン見直し表」に基づき話し合わせ、継続、変更に分けて作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づくたび介護経過に記録し、問題が生じたら良かった点、悪かった点等職員間で情報交換、話し合い計画に盛り込んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変わるその日その日のご様子やその人その人に合わせた対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公園まで道端の草花や季節の移り変わりを感じながら散歩したり系列の行事に参加したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される以前からのかかりつけ医に通いながらも、急に具合の悪い時には敷地内の本院で受信できる。	1名を除き二階の伊藤医院での受診となっている。尚、年一回の定期健診は全員が二階の伊藤医院で実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や気づきは即時看護師に報告、医師に指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様からご様子を伺っているが、病院関係者とは話せていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に終末期の場合どうされたいのか意向を伺っている。当ホームでの看取りを希望される場合指針を説明させて頂き同意の元、併設医師、看護師と共同する。	「看取りに関する指針」が作成され、入居時には終末期の対応が可能である旨の説明がされている。現在は利用者との取り決めは交わしていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本院併設のため急変発生時すぐに上申し、対応できる。誤嚥や物が詰まった場合のタッピング等練習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の夜間想定避難訓練を行っている。運営推進会議時、区長さんに協力をお願いしている。	消火及び外への避難訓練は実施されているが、火災や地震災害時の町指定の避難所への避難訓練は確認出来なかった。	地震や事業所の火災発生時の町指定の避難所を確認すると共に、避難所への通路の安全確認をする事が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の好き嫌いやその時の気分や性格に合わせて対応させていただいている。	言葉掛けやトイレ誘導などの対応については、人格や誇りを大切に対応しているが、個人情報保護などの基本的なマニュアルに基づく研修の実施は確認出来なかった。	プライバシー確保についての基本的な認識を共有する為にも、職員の研修を実施して欲しい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でも話せる信頼関係を築けるよう日々働きかけ、思いを聞かせて頂けるようになってきている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の体調や気分などのご本人のペースを大切に一日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水や乳液をつけたり、お白粉をつけて化粧される方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は委託業者がするが、食べやすく刻んだり一緒におやつ作りしたり、後片付けは進んでやって頂いている。	食事は委託業者による調理となっており、利用者に応じた手を加えている。出来る人には、後片付けや準備をしてもらっている。職員は交替で利用者と共に食べながら楽しいひと時としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調不良で食事、水分量が減った場合、栄養士と相談し、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のお茶、朝晩の歯磨き、昼食後の義歯洗浄、声かけや見守り、半介助で口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴えない利用者の場合、そぶり等でトイレ誘導を行っている。どうすればいいのか解らない場合のみ指示させていただく。	夜は「おむつ」の方もいるが、昼は随時誘導しながら対応して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取に気をつけ、軽体操や、入浴時の腹部マッサージ等で自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間の設定はあるが、ご本人の気分や体調に合わせて変更し、気分良く入浴して頂いている。	日曜、水曜を除き交替で入浴の支援をしている。車椅子の2名の方も対応出来る様になっており、浴室は明るく広い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の生活リズムを大切に、体調に合わせ、休みたい時に横になってもらう。夜の就寝もご本人に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効や副作用に目を通し、飲まれたか確認させてもらっている。 日々、体調の変化に気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食の楽しみの為、食べたい物の差し入れをご家族にお願いしたり、皆と過ごす時間を大切にしながら一人の時間も大切にしている。食器の片付け、洗濯など普段されていた家事に取り組むことにより自分の役割を見つけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望のある時は、ご家族と出かけられたり、気候の良い時には職員と近くの公園まで散歩し、ブランコに乗ったり、草花をつんできて花瓶に生けたりする。	冬はあまり出掛けないが、公園や車で買い物に出掛けたりして支援している。車椅子の方は表に出て季節感を感じられる様にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本はお金の管理はしていないが、どうしても持っていたと言われる利用者の方には所持して頂いている。ご家族と外出時等使われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子供さんに年賀状が出せるよう支援している。 中には「そんなん出したらお母さん頭おかしくなってしまうと思われるわ」と頑として拒否される方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁飾り等を変え、一緒に季節の折り紙や飾り付けをしたり、鉢花の世話をされ楽しまれている。	食堂兼リビングは明るく、ゆっくり出来るソファが置かれ、居心地良く過ごせる様に配慮されている。廊下、居間、食堂、トイレ全てが同じ高さ、同じ色でスッキリした感じがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間でも一人一人が好きな事が出来るようにしている。テレビ前ソファで一枚の膝掛けを広げ二人で掛け合ったり、ベストを脱ぐのを手伝ってあげたり仲良く過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と一緒に写した思い出の写真を飾ったり、ご本人が必要な物を持ってこられ使いやすい様に置いてある。	各居室には洗面台が設置され、何時でも対応出来る様に配慮されており、一人ひとりが思い思いの物を持ち込み居心地良く過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手を貸しすぎないよう見守り、これは出来ないだろうと決めつけず、やっていただくことにより意外な力を発見することもある。		